

東日本大震災・原子力災害伝承館

資料 1

令和6年度 事業実績



目次

1. 東日本大震災・原子力災害伝承館運営状況

1-1. 入館者数推移

1-2. 学校団体利用状況

1-3. 資料収集・保存

1-4. 展示

1-5. 語り部

1-6. 研修

1-7. 調査・研究

1-8. イベント

1-9. 広報・誘客

1-10. 視察受け入れ

1-11. 収益事業

1-12. (参考) 情報発信拠点整備

伝承館は、東日本大震災と福島第一原発の事故による未曾有の複合災害の記録と教訓を、国や世代を超えて継承し、復興に向かう福島の今を発信するため、令和6年度は特に以下の方針のもと取組を進めてきた。

●令和6年度の基本方針

1. 複合災害の正確な情報発信と風化の防止
2. 来館者に福島を経験を自分事として捉え、考えるきっかけとなる取組の継続
3. 伝承館として初となる海外での展示開催
4. 福島国際研究教育機構（F-REI）と連携し、関係大学との共同研究事業実施



（1）入館者数の状況

●令和6年度3月末 86,551人

※R6目標：90,000人

（団体：47% 個人：53%）

○令和5年度 93,759人 ※R5目標：75,000人

（団体：45% 個人：55%）

○令和4年度 80,119人 ※R4目標：60,000人

（団体：47% 個人：53%）

○令和3年度 58,271人 ※R3目標：50,000人

（団体：40% 個人：60%）

●開館（R2年9月）からの累計 362,450人

（R7年3月まで、団体：42% 個人：58%）

（2）教育旅行による入館状況

開館当初から教育旅行の訪問先として誘致に取り組み、県内外の多くの学校に来館いただいている。

●令和6年度3月末 延281校 16,764人

・県内の学校：延べ144校 8,676人（52%）

・県外の学校：延べ137校 8,088人（48%）

○令和5年度 延289校 16,824人

・県内の学校：延べ155校 8,843人（53%）

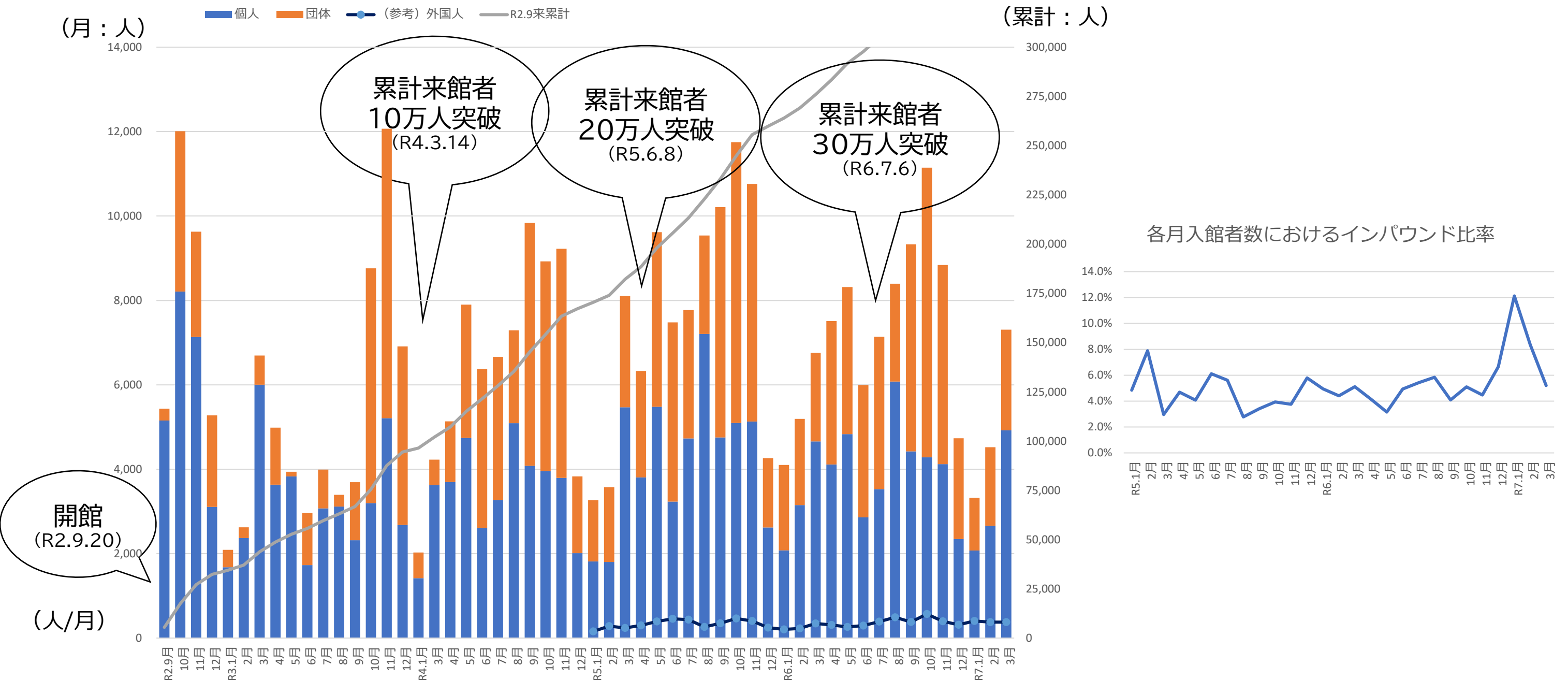
・県外の学校：延べ134校 7,981人（47%）

○令和4年度 延313校 18,277人

・県内の学校：延べ191校 11,344人（62%）

・県外の学校：延べ122校 6,933人（38%）

1-1 入館者数推移



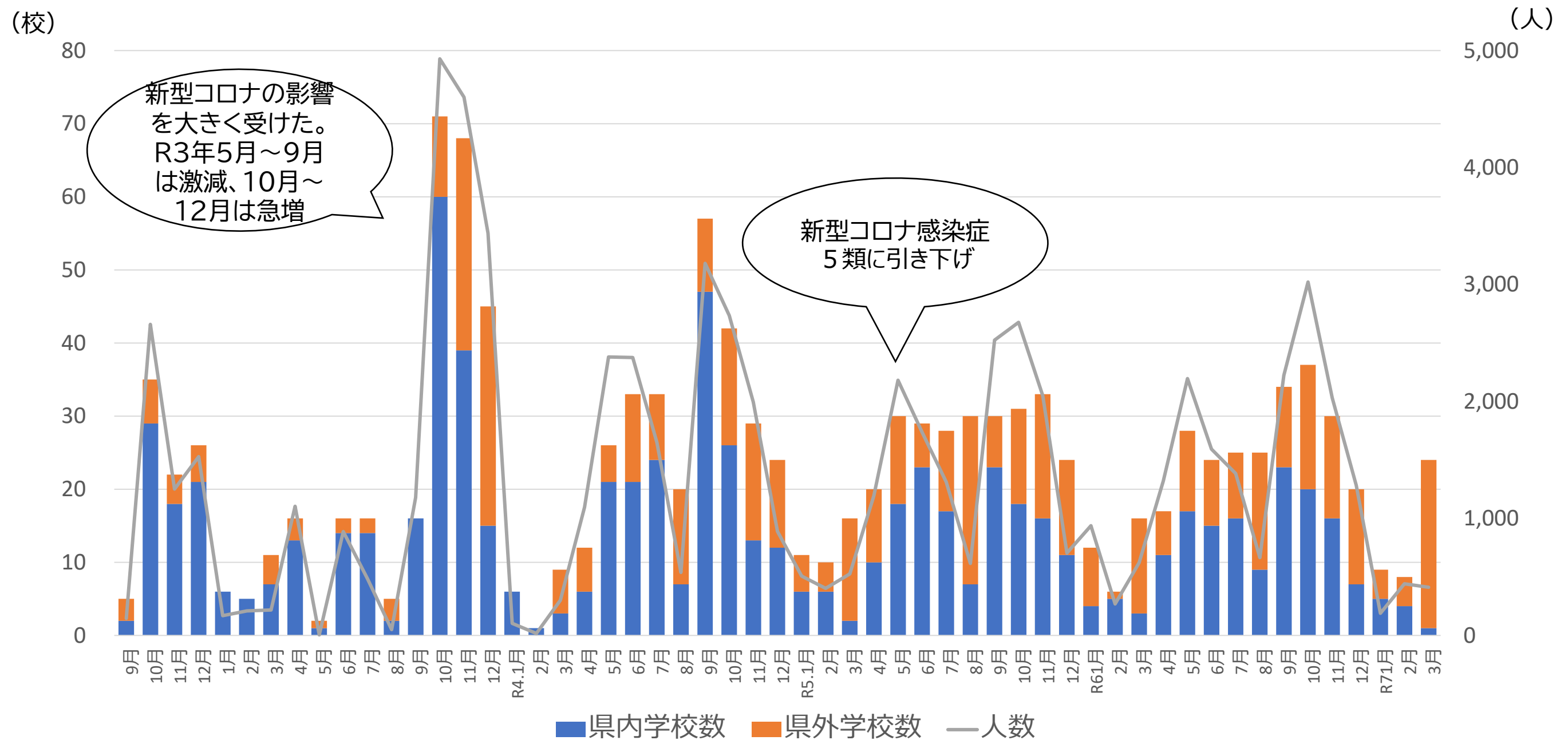
✓ 来館者数（有料展示室への入場者を「来館者数」として計上）：

新型コロナウイルスによる外出自粛が各所で実施される中のR2年9月に開館した。R5年5月、同感染症の5類引き下げにより、R5年度はようやく平時の状況となり、来館者数は過去最高の93千人を数えた。R6年度は前年比減少傾向（※3.11伝承ロード推進機構の資料によると「宮城、岩手の主要な伝承施設も同様の傾向」）が続き全体で87千人となった。個人来館者数の1割以上の減少が影響している。

なお、累計来館者数はR6年7月に30万人、R7年1月に35万人に到達した。

✓ インバウンド：R4年10月に新型コロナウイルスの水際対策が大幅緩和されて以降、外国人の来館者が目立ってきたため、参考としてR5年1月から目視での外国人来館者数をカウントしている。R6年度は月別で全体比1割を超えるケースもあった。（R6年度は約5%の4,565人、R5年度は約4%の4,086人）

1-2 学校団体利用状況



- ✓ **R3年度：17,105人** 新型コロナウイルスの行動制限が入館者数に大きく影響した。
- ✓ **R4年度：18,277人** 行動制限がなく、入館者が前年度比で増加した。
- ✓ **R5年度：16,824人** 平時モードとなり、前年度比での受入れは県内学校の減、県外増、全体では前年度比で減となった。
- ✓ **R6年度：16,764人** 県内、県外ともに前年度比ほぼ横ばいでの推移となった。

1. 資料収集

(1) 収集点数：10,599点
累計で約30万点の資料を収集。

(2) 収集者件数：36件（重複含む）

(3) 収集内容

- ・ふたばいんふおの調査・収集
- ・富岡町のおらほ-yaの調査・収集
- ・震災のチャリティイベントで落札したキティ人形
- ・双葉町のだるまやガードレール
- ・企画展に関連した写真や動画
- ・ドラマ「風のふく島」の出演者台本やメッセージ

(4) 被災体験収集

- ・企画展関連の証言収集
- ・被災体験（手記や証言）を継続的に募集



ふたばいんふお関係者
インタビューによる証言収集



震災後そのまま残されていた
賞味期限の切れた商品



津波で流されたガードレール



双葉ダルマ市のダルマ引きの様子



葛尾村盆踊りの様子



被災体験の募集チラシ



ふたばいんふお内の調査

1-3 資料収集・保存

2. 資料貸出

- (1) 福島市消防本部へのデータ資料貸出
- (2) 一般社団法人Nippon AWAKESへのデータ資料貸出
- (3) 富岡町教育委員会への写真パネル貸出
- (4) (株) ジェイアール東日本企画への写真パネル貸出
- (5) UR都市機構への資料やデータなどの貸出
- (6) 朝日新聞へのデータ資料貸出
- (7) (株) 福島映像企画への写真・映像貸出
- (8) 成田市君津の杜コミュニティセンターへの写真パネル貸出



資料閲覧室(改修前)

3. 資料閲覧室の充実

- 2022年1月オープン
- 約2400冊**を所蔵（2025年3月現在）
 - ・震災関連の一般図書、児童書（主に絵本）、専門書、専門分野の辞典・辞書、各自治体の震災記録誌および広報誌等を配架
- 2024年1月から**伝承館の図書データベースを国立国会図書館DBひなぎくと連携**
 - 国立国会図書館のWEBサイトから伝承館収蔵図書の検索ができるようになった。
- 2025年3月より資料閲覧室の場所を研究室に変更
 - 来館者が自由に出入りできない場所に移動したため、資料閲覧方法を検討中。



図書データベース検索画面の例

1. 企画展「福島と放射線」開催（R6.7.20～11.25）

「福島と放射線～いま、あらためて知る放射線と災害～」

放射線を基礎から解説し、原発事故後の空間線量、避難指示区域の変遷がわかるパネルや、放射線の軌跡が見える霧箱、線量計の実物を展示した。

・関連イベント：

①個人向けバスツアー「空間線量を測ろう」

8/4（日）と10/13（日）の2回開催。学芸員の解説で伝承館周辺や帰還困難区域を通過するなど、実際に線量計を使用して空間線量を測定した。

②子ども実験教室 夏休み企画として、8/25（日）に開催。学芸員が、地震や津波のメカニズムの分かりやすい模型を使用して解説した。



2. 企画展「長期避難と祭り」開催（R6.12.21～R7.3.24）

企画展「長期避難と祭り～伝統文化がつなぐ地域住民の絆」

被災した文化の一例として祭祀に着目し、双葉郡8町村と飯舘村の25の団体に取材した企画。震災と原発事故の被災地で民俗芸能の復活に取り組み、住民の絆をつなぎ、未来へ継承する人々の思いを伝えるため、団体代表へのインタビューや神輿、獅子頭などの実物、伝統芸能の映像などを展示した。



・関連イベント：『ふたば・いいたて民俗芸能大集合！』

2/22（土）と2/23（日）の2日間、伝承館内外において企画展協力各団体による民族芸能の実演を行った。



1. 大東建託賃貸住宅コンペ双葉町（持込企画、R6.4.15~5.13）

2. リプルン福島パネル展（持込企画、R6.4.26~5.26）

**3. 能登半島地震報道写真展
（読売新聞社持込企画、R6.7.3~7.31）**

**4. イノベ機構「復興知事業活動報告会」ポスター展
（自主企画：R6.8.30~12.28）**
復興知事業により浜通り地方で活動する県内外の大学や高専での21事業の報告会が南相馬市で開催された。その際に使用したポスターを展示し、活動の現状を紹介した。

5. 福島学カレッジ企画展（自主企画、R6.9.21~9.29）

開沼上級研究員による福島学カレッジの中間報告的展示会を開催した。



6. 林野庁パネル展（持込企画、R6.12.23～R7.1.22）
「福島の子の森のことを知ろう～森林・林業・森のめぐみと復興～」

7. 移住ドラマ「風のふく島」パネル展
（自主企画、R7.1.4～3.31）

8. UR都市機構フォトコンテストパネル展
（持込企画、R7.1.9～2.17）

9. 鮭アートのぼり展示（持込企画 R7.1.11～3.11）

10. 「阪神・淡路大震災パネル展」
（自主企画、R7.1.15～1.31）

・発災から30年となる節目であるため、神戸市の「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」からパネルを借受け開催した。震災の被害や復旧・復興の状況を写真やデータでたどるグラフィックパネルを展示した。



11. 大阪・関西万博復興庁展示100日前イベント・展示（復興庁主催、R7.2.8）

伊藤大臣、輿水副大臣、内堀知事、伊澤双葉町長のほかアンバサダーの荒川静香さんらが来館した。

12. 福島学カレッジ成果展示（自主企画、R7.2.15~2.20）

13. 誇心館パネル展示（持込企画、R7.3.5~3.31）

14. みらいへの手紙パネル展（県主催、R7.3.8~4.11）



1. 墨田区役所出張展

会場：墨田区役所（東京都墨田区）

日付：R6.8.26（月）～9.1（日）

内容：関東大震災の発災日である9月1日に併せて毎年開催する「すみだ防災フェア」の一環として伝承館がギャラリーに出展。



2. 日本排尿機能学会での出張展

会場：ビッグパレットふくしま

日付：R6.9.5（木）～9.7（土）

3. 神田外語大学出張展

会場：千葉県・幕張 神田外語大学キャンパス、学園祭

日付：R6.10.26（土）～27（日）

4. UR都市機構での展示協力

「東日本大震災震災復興企画展 @赤羽台団地」

会場：東京都北区 UR都市機構ヌーヴェル赤羽台団地赤羽台団地

日付：R6.12.23（月）～R7.3.31（月）

5. 消防博物館出張展

会場：消防博物館（東京消防庁消防防災資料センター（東京都新宿区））

日付：R7.1.21（火）～3.23（日）

震災から14年の節目に合わせ出張展を開催。消防庁は東京電力福島第一原発事故で建屋への注水を実施する等、震災の被災地で消防・救助活動に尽力した。



1. フランス出張展

会場：PARC SCIENTIFIQUE DU PRES-LA=ROSE
(フランス、モンベリアル市)

日付：R6.12.14 (土) ~R7.6.30 (月)
(※R7.3.31現在 8,834名 (一般7,738名、
団体1,096名) が見学)

関連イベント (R6.12.13 (金) ~14 (土))

- ・オープニングセレモニー
- ・高村館長や瀬戸学芸員、語り部による講演を実施



実物資料の追加、入替えを実施し、展示総数は300点となった
(令和7年3月1日（土）より公開)

1. インバウンド対応の強化：4言語で展示内容を説明

- ・英語、中国語繁体字・簡体字、韓国語の展示説明を追加



2. 第4ゾーン「長期避難への対応」コーナーを全面的に更新

- ・被災された方の住環境がどう変遷してきたのか、全域の避難を強いられた町村もある中で被災自治体の人口がどう変化してきたのか、原子力災害の影響により小中学校にどのような変化があったのかについてより詳しく展示。

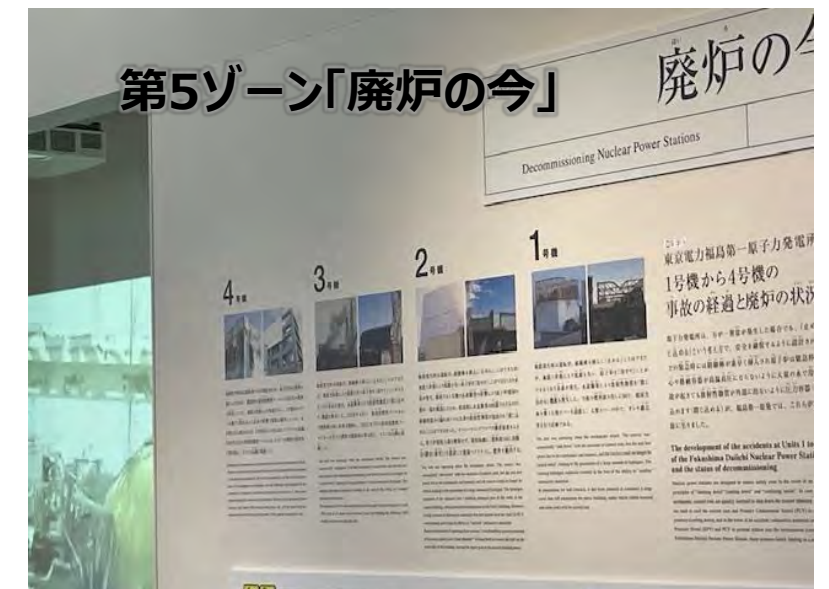
- ①被災者の住環境の変遷
- ②福島県と避難指示が出された地域の人口推移
- ③避難指示が出された地域の小中学校の避難と再開
- ④復興公営住宅の模型



3. 第5ゾーン「廃炉の今」コーナー全面的に更新

- ・東京電力福島第一原発の廃炉に関する展示を全面的に更新

- ①1～4号機の事故の経過と廃炉の状況
- ②廃炉に向けた中長期ロードマップ
- ③映像資料：東京電力制作「『福島第一原子力発電所は、今』～あの日から、明日へ」の一部を展示
- ④ALPS処理水に関する解説動画



- ・語り部登録者数：35名（令和6年度）、伝承館スタッフ4名も講演実施
- ・一日4回講演（午前2回1名と午後2回1名が担当）
R6年度：聴講者数 11,817人（1,228回開催）
 （参考）R5年度：聴講者数 11,246人（1,220回）
 R4年度：聴講者数 10,396人（1,212回）

【登録者への研修会開催】

- ・第1回 8月24日と26日（延べ23名参加）
- ・内容：
 - ・一般アンケート結果のフィードバック
 - ・ワークショップの実施
 - ・講義の受講「福島県の農産物はなぜ安全になったのか？」
 （福島大学食農学類 小山良太教授）
- ・第2回 2月24日（25名参加）
- ・内容：
 - ・一般アンケート結果のフィードバック
 - ・講義の受講：「放射線被ばくと健康影響」
 （高村昇伝承館長（長崎大教授））
 - ・震災遺構請戸小学校見学



【特記】

- ・春のGW、夏休み（お盆）期間は聴講希望者増に対応し研修室全面を使用して開催した。
- ・3.11メモリアルイベントではエントランスホールで開催した。

○沖縄で語り部交流（福島県空港交流課事業、R6.11.5~11.7）

伝承館職員（語り部）が富岡町の語り部の方と沖縄県平和祈念資料館、ひめゆりの塔などを訪れ、沖縄戦を伝える方々と交流した。沖縄の学芸員や継承者から戦争の悲惨さを聴き、伝え続ける上での技術や課題を学ぶ機会となった。



沖縄の語り部の方々と

○被災体験を英語で伝える（R6.11.9）

伝承館の語り部が外国出身の東北大学生らを前に、約40分間、英語での講話を行った。伝承館の語り部2名は外国人来館者にも被災体験を伝えられるように「英語による語り部育成講座」（県生涯学習課事業）を受講しており、その1名が実施したもの。



英語での語り部講話

○3.11メモリアルイベントでのトークセッション

（福島県主催、伝承館共催、R7.3.8）

岩手県と福島県（富岡町）で震災伝承を続ける若い世代の2名を招き、それぞれの視点・考えについて語り合った。



若い世代の語り部によるトークセッション

展示見学に加えて、下記プログラムを組み合わせた「一般研修」を実施。

※ 福島県観光物産交流協会との共同事業

<プログラム>

- ・研修語り部講話（被災体験の講話 40分）
- ・フィールドワーク（双葉、浪江町内を巡る 60分）
- ・ワークショップ（研修の振り返り 60分）

<参加者数>

令和6年度 346団体 14,512人
開館後累計：1,213団体 52,804人

（参考：令和5年度 351団体 13,955人）

▽令和6年度 内訳

学校関係 111団体 8,186人
その他団体 235団体 6,326人



語り部講話



フィールドワーク

- ・館長及び上級研究員が講師となり、復興や防災に関する専門研修のプログラムを実施
- ・今年度は、館長及び上級研究員による「専門講座」に加え、「上級研究員の企画に基づく研修プログラム」を実施。

<①専門講座>

利用者の希望に基づき、館長、上級研究員の専門分野に関する90分の講義を実施。

【募集期間】 令和6年5月15日（水）～11月30日（土）

【実施期間】 令和6年6月15日（土）～12月28日（土）

【実績】 6 団体、参加者126名

【実施講座一覧】

○ 高村館長「放射線被ばくと健康影響、リスクコミュニケーション」

高村館長専門研修：ハーバード公衆衛生大学院

- ・ハーバード公衆衛生大学院（20名）、東日本国際大学（米ハンフォード地域の学生を含む、11名）
- 立命館慶祥高校（31名）、他団体（9名）

○ 安田上級研究員「原子力防災と放射線」

- ・南相馬市教育研究会（30名）

○ 関谷上級研究員「東日本大震災の社会的影響」

- ・県立白河高校（25名）

○ 開沼上級研究員

「福島復興・廃炉の社会科学、ボードゲーム型復興・廃炉体験で学ぶ福島学」

- ・実施なし



<②上級研究員の企画に基づく研修プログラム>

【自治体職員向け原子力研修】 ※(一財)日本原子力文化財団との共催

- ・ 令和7年1月27日（月）～28日（火）
- ・ 高村館長、安田上級研究員の講演など
- ・ 場所：伝承館、Jヴィレッジ
- ・ 参加者：32名
- ・ 北海道岩内町、青森県六ヶ所村、鹿児島県薩摩川内市など
16自治体から参加

【消防職員向け原子力研修】

- ・ 令和7年2月19日（水）～21日（金）、
- ・ 安田上級研究員の講演、双葉消防本部の講話など
- ・ 場所：伝承館、福島市
- ・ 参加者：10名
- ・ 福井県の敦賀美方消防組合が参加

【福島学カレッジ】

- ・ 開沼上級研究員らが講師となり、中高生を対象に、
「福島の研究」を体験する実践型プログラム
- ・ 「研究コース」（20名参加）に加えR6年度は新たに「表現コース」を開催



○調査・研究体制

- ・館長及び上級研究員3名に加え、常任研究員4名体制で研究活動を実施。
- ・客員研究員25名を委嘱し、館長及び上級研究員が研究班での研究を継続。

【活動実績】

○常任研究員による研究実績

- ・学術論文 4件、口頭発表 16件、講演・講義 15件、外部資金獲得 2件、
その他（社会貢献活動、取材等）48件、ポスター発表 10件、
書籍（分担執筆）4

○福島県環境創造センター成果報告会への参加（R6.6.25（火））

- ・常任研究員のポスター発表

○常任研究員の企画による研究成果ポスター展示の実施（R6.5月～R7.3月）

- ・常任研究員の提案により研究成果ポスターを展示。



○伝承館調査・研究部門活動報告会（R6.12.19（木））

（会場：東日本大震災・原子力災害伝承館 研修室）

・館長、上級研究員及び常任研究員が活動内容を報告した。



発表者	内容
高村館長	福島における環境放射能、放射線リスクコミュニケーションとリスク認知の変遷
安田上級研究員	東日本大震災・原子力災害における放射線防護対策の検証～次の世代に伝承すべきこと～
関谷上級研究員	処理水放出後の心理的影響に関する国際比較研究
開沼上級研究員	石の上にも3年：研究・教育・社会連携の融合と持続可能性の確立
葛西常任研究員	復興過程のまちづくり研究～浪江町における実践事例を通じて～
静間常任研究員	東日本大震災・原子力災害過程における情報利用環境についての調査と考察
山田常任研究員	福島における震災伝承の現状と意義に関する調査・検討
大杉常任研究員	原子力防災および福島第一原発の廃炉の勉強会に関する報告

○東日本大震災・原子力災害 第3回学術研究集会（R7.3.19（水）-3.20（木））

（会場：コラッセふくしま）

- ・東日本大震災と原子力災害の研究者等の学術交流と情報交換の場を提供。
- ・放射線影響、コミュニケーション、行政対応、コミュニティ、産業といった伝承館の幅広い調査・研究分野に関する研究発表が行われた。発表86件、一般参加者77人。



○福島国際研究教育機構（F-REI）の公募事業への参加

- ・F-REIの第5分野（原子力災害に関するデータや知見の集積・発信）において、長崎大学、東京大学が代表機関となる研究事業に伝承館（イノベ機構）が共同研究機関として参加。（3事業とも令和7年度継続が決定。）

1 セタイイベント（伝承館主催：R6.7.6（土）～8.11（日））

（1）竹飾り展示期間：令和6年7月6日～8月11日

（2）イベント実施：令和6年7月6、7日（土、日）

- ①スタンプラリー：伝承館、双葉町産業交流センター、浅野撚糸の3か所合同で初めて実施
- ②霧箱展示：放射線の飛んだ跡を観察できる霧箱を設置
- ③地震と津波のメカニズム実験：当館学芸員が模型などを使い、なぜ地震と津波が起きるのかを基礎から解説
- ④起震車体験：最大震度7の揺れを体験



2 双葉花火（福島煙火協会主催、R6.9.28（土））

観客数千人を想定した、この地域として最大規模のイベント企画に対し、伝承館は地域の交流人口拡大の観点から観覧会場として協力した。当日は1万発の花火が打ち上げられ、約3,500人の参加を得て成功裡に終了。この場所の可能性を探る試みとなった。



3 開館4周年 ふくしま防災・伝承パーク2024

(福島県主催、伝承館共催、R6.10.5~6 (土、日))

福島県と連携した防災イベント「ふくしま防災・伝承パーク」を開催した。

防災ワークショップとしてダンボールジオラマや、自転車での発電体験を行った。



4 伝承館発着ホープツーリズム体験周遊バス

(8月10日(土)~12日(月)、11月2日(土)~3日(日)、計5日間)

福島県観光交流課主催でモニター開催された。

5 「対話福島2024」(伝承館主催、R6.12.7~8 (土、日))

初日は福島県出身の映画監督・今泉力哉氏と開沼博上級研究員が「記す」をテーマに対談。

2日目は参加者と今泉監督、開沼上級研究員が対話



6 3.11メモリアルイベント2025

日付：令和7年3月8日（土）、9日（日）、11日（火）

- ・3月8日（土）：トークセッション、3.11を学ぶバスツアー、語り部講話（@エントランスホール）
- ・3月9日（日）：語り部講話（@エントランスホール）
- ・3月11日（火）：県主催追悼復興祈念式典のインターネット中継、大川義秋氏による箏生演奏、地域の民俗芸能披露（双葉町・前沢女宝財踊り）、追悼花火を実施した。
関連イベントとして、相双地方振興局主催によるキャンドルナイトとマミーすいとんの振舞いが行われた。



7 双葉花火8K3D映像上映会

日付：令和7年3月8日～11日

- ・令和6年9月に伝承館を会場に行われた「双葉花火」の8K3D映像の上映会を研修室で実施した。
NHKテクノロジーズの協力。4日間で327名が視聴した。

(1) プレスリリース

・実施回数:28回

- ✓ 各企画展、イベントや県外出展の加え研究員の活動報告などプレスリリースを行い、報道機関の取材につなげている。
- ✓ R6年度は3月11日にNHK、FNNに加え地上波ローカル局4局が伝承館から生中継した。

(2) 伝承館ホームページ、ソーシャルメディア

・ホームページ閲覧数（ページビュー数）409,015回
 ・HP、SNS情報発信回数 500件

HP、SNSが有効な発信手段であることは「一般来館者アンケート」で示されており、積極的な活用を図っている。



(3) イベントへの出展

県内外の防災イベント・風評払拭イベントに伝承館のPR、福島の正確な情報発信のため出展している。R6年度はR5までのイベントの効果の検証し、実施回数を絞り込んだ。

- 「ふくしまフェスタin 恵比寿ガーデンプレイス」(東京・目黒区、R6.7月21日(日))
三井不動産の協力を得て福島県広報課が主催する風評払拭イベントにブース出展

- 浜フェス2024(東京・港区、R6.10.19(土)~20(日))
福島県観光交流課主催のする六本木ヒルズを会場とするイベントにブース出展
通常のパネルのほか、伝承館紹介ビデオ、復興庁制作の浜通り紹介ビデオ、地震のメカニズム器などを展示した。
2日間の来場者は10千人。くじの景品の一つとして伝承館入館券が会場で提供された。
(後日その券を使い7名が双葉町を訪れ入館した)



浜フェス2024

- ファイヤーボンスホーム戦 出展(いわき市総合体育館、R7.1.11(土)~12(日))
伝承館での入館料割引で連携しているファイヤーボンスのホームゲームに出展し、選手たちが伝承館を見学しているパネルなどを展示し、誘客をはかった。



ファイヤーボンスホーム戦でのブース

- 神田外語大学(千葉市幕張、R6.10.26(土)~27(日))
福島県と連携協定を結んでいる神田外語大学の学園祭に出展。神田外語大学は学生の探求学習に伝承館を活用しており定期的に伝承館に来館している。

(4) 誘客活動

【誘客活動実績】

▽令和6年度 **549箇所**

※昨年までは団体来館者を対象とした幹旋営業が主であった。本年度は訪問営業にも注力し、主に県内の旅行会社や県内中学校の担当者と面談し訪問数は計220件となった。

【関係団体との連携】

- ・県観光物産交流協会（観物協）委員会（国際観光推進、教育旅行推進）の各委員を継続（R5年6月～）
 - ・教育旅行誘客キャラバン参加（R6年5月、東京、観物協主催：東京、神奈川）
 - ・旅行会社向け受入れ業者による商談会参加（R6年6月、東京、東北教育旅行セミナー、東北観光推進機構主催）
 - ・旅行会社向け東北観光推進機構モニターツアー商談会参加（Jヴィレッジ、R7年1月）
 - ・日本旅行モニターツアー商談会参加（Jヴィレッジ、R7年1月）
 - ・福島空港就航先旅行エージェント招聘事業での商談会参加（スパリゾートハワイアン、R7年2月）
-
- ・いわきFCと連携しホームゲーム観戦チケットによる入館料割引を継続（R5年4月～）
 - ・アクアマリンふくしまと入館料相互割引継続（R5年7月～）
 - ・Jヴィレッジと相互優待を継続（R5年8月～）
 - ・福島ファイヤーボンズと連携した入館料割引継続(R5年8月～)
 - ・川内の郷かえるマラソン（主催者：かわうちラボ）参加者に向けた入館料割引を実施（R6年9月）

○政府、自治体、海外から様々な要人が当館を視察。

(随行者含む)	R6年度		(R5年度)	
①政府関係者	21件	122人	(17件	132人)
②海外要人等	19件	231人	(13件	132人)
③地方自治体関係者	26件	251人	(8件	138人)
④民間企業幹部、大学等	33件	347人	(19件	202人)
合計	99件	951人	(57件	604人)



駐日ドイツ全権大使来館



駐日フランス全権大使来館



長崎大学長来館

○来館者のサービス及び収益向上を目的に、防災グッズ等を販売。

▶R6年度販売実績 1,328千円 (R5年度1,960千円 R4年度2,012千円 R3年度 1,727千円)

●販売品目

- ・シャツ ・ブルゾン ・防災対策ボトル5点セット
- ・防災手ぬぐい ・防水ポーチ入りアルミブランケット
- ・8町村キャラクタクリアファイル
- ・ガチャ (8町村キャラクター、缶バッジ)
- ・避難のころえんぴつ ・オリジナルガイドブック

●販売書籍

- ・ぼくのうまれたところふくしま
- ・福島民報社震災写真集 (受託販売)
- ・きぼうのとり (受託販売)
- ・福島民友新聞社 証言あの時 (受託販売)



館内のグッズ販売コーナー

○伝承館外での販売 (Jヴィレッジ)

【令和6年度の動き】

- ✓ 在庫数の多いガイドブックの割引販売を期間限定で複数回実施した。
- ✓ 通信販売は非効率で需要も乏しいため終了とした。
- ✓ 伝承館外での販売は需要が乏しいため磐梯山噴火記念館、岩瀬書店は終了とした。

○コミュニティハブデザインとしてR7年2月に研究室、閲覧室、エントランスホールの改修を実施した。



階段下にベンチを設置



研究室を閲覧室に移設



エントランスホールに書架を設置



エントランスホールにベンチを設置